

## ドローン使い空から測量

由利工高 建築科の2年生が学ぶ



ドローンのコースや高度を設定する生徒

ドローンを使った測量を学ぶ授業が、由利本荘市石脇の由利工業高校で開かれた。建築科の2年生31人が参加し、実際にドローンで空中から校舎を撮影するなどして、測量方法などについて理解を深めた。

同市石脇でドローン事業などを手がける「あおい裝飾」の佐々木社長(47)が講師を務めた。使用したドローンは直径約50センチでカメラを搭載し、上空を移動しながら測量

ができる。

生徒は事前に入力した設定に従って、高度約50メートルを自動で移動するドローンを目で追いつつ、地上に設置されたモニターもチェックして空中からの測量を見守った。一部の生徒は高度やコースの設定をタッチパネルで体験した。

佐々木社長は、数日前に撮影し、3Dデータ化した校舎の画像も披露。屋根の破損箇所や教職員の車などが鮮明に映し出され、生徒が食い入るよう見つめた。

生徒の一人、戸村美空さんは「ドローンが自動で動くことを初めて知った。将来、仕事でも使ってみたい」と話した。授業は本荘ライオンズスクラブが9月26日に開いた。

(進藤麻斗)